

巻頭言

未来志向の魅力ある学会づくりに向けて



宮崎美砂子

日本地域看護学会 理事長／千葉大学大学院看護学研究院

日本地域看護学会誌, 24 (2) : 3, 2021

一般社団法人日本地域看護学会は、2021年6月27日開催の定時社員総会で、新役員が承認され、新体制のもと、学会活動がスタートしたところである。私は、前期に引き続き、2021～2022年度の2年間、理事長を務めることになった。

前年度の学会活動は、日本地域看護学会誌の電子ジャーナル化、看護学基礎教育で修得すべき地域看護の能力と卒業時到達目標および目標に到達するための教育内容と方法(2020)の発出にくわえ、新型コロナウイルス感染症への増大するニーズに対して、厚生労働省等への人材派遣、学会ホームページへの新型コロナウイルス関連情報特設サイトの設置、学術集会の誌上公開、研究セミナーのオンライン開催、COVID-19による教育への影響調査等に取り組んだ。

こうした活動経過を踏まえながらも、社会が多様化かつ複雑化するなかで、地域看護を社会のニーズに応えていく創造性豊かなものとして再確認し、これからの地域看護学会を、未来志向のもとに多様な人々の参画を受け入れ、魅力ある学会としていくことがいっそう大事であると考えている。本学会は、地域看護学の再定義(2019)により、地域看護学の学術団体であることを改めて明示したが、そのことについて、“学会員や社会との共有や発信が充分とはいえないのではないか?”“地域看護学会の特徴を踏まえた魅力ある学会づくりに向けて運営を強化する必要があるのではないか”という問題意識を、新役員間で共有した。そのうえで、今期の学会の活動方針として、地域看護学の再定義(2019)を学会員および社会と広く共有し、地域看護学のさらなる発展に向けて、学会の運営基盤を強固にし、魅力ある学会づくりの推進を図ること、を掲げた。常設の7つの委員会は、地域看護の再定義の具現化に向けて重点化すべき計画を明確にして始動の準備をさっそく整えたところである。また新たに2つのワーキンググループを設置して、魅力ある学会づくりを補強することとした。ワーキングの1つ目は、「活動推進エンジンチーム」と命名し、地域看護学会としての特徴を生かした魅力ある学会づくりに向けて、この2年間の重点活動および中長期展望と戦略を作成する。2つ目は、「次世代研究活動推進チーム」と命名し、これからの地域看護学の発展のために重点的に取り組むべき研究課題を検討し、次世代の地域看護学を担う学会員の研究活動の活性化と推進を図る体制づくりを行う。これらのワーキングは、まずは1年間の時限付きとし、スピード感をもって、魅力ある学会づくりに寄与する方針や体制づくりを期待するものである。

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるうなか、学会員のみなさまは、それぞれの立場で、対応に尽力していることと思う。健康危機対応が長期化するなかにもありながらも、地域看護学を創造する探究を進めるうえで、本学会が学会員の拠り所となるよう、展望や根拠となる知識体系の発出、学術の推進を図る役割を重視していきたい。学会員のみなさまには、これまで以上に、学会活動への参画の呼びかけや、意見を伺わせていただくことを予定している。未来志向の魅力ある学会づくりに力添えをお願いしたい。